

参考見積募集要領

次のとおり参考見積を募集します。

令和8年2月10日

独立行政法人水資源機構

筑後川上流総合管理所長 前田 剛宏

1. 目 的

この参考見積の募集は、筑後川上流総合管理所で予定している業務の積算の参考とするための参考見積を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和7・8年度一般競争（指名競争）参加資格業者の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、筑後川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

(1) 提出方法

原則、電子メール（社印省略可）により提出するものとします。

参考見積書の様式は問いませんが、提出にあたっては、参考見積書または電子メールに担当部署及び氏名の記載をお願い致します。

なお、参考見積書は、作業項目毎に単価等を記載して提出して下さい。

(2) 提出先及び提出期間

【参考見積書の宛名】

独立行政法人水資源機構 筑後川上流総合管理所長 前田 剛宏 宛

【担当】調査設計課 下嶋

〒838-1305 福岡県朝倉市菱野 1142

TEL 0946-52-8050 FAX 0946-52-8035

電子メール asakura_bousai@water.go.jp

【提出期間】令和8年2月10日(火) から令和8年2月19日(木)16時 まで

4. 参考見積内容

(1) 業務内容

業務内容の詳細については、別紙-1 及び参考図のとおりです。

別紙-2 の見積項目に対する歩掛見積をお願いします。

(2) 見積の有効期限

見積の有効期限は、令和9年3月31日まででお願いします。

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、電子メール（様式は自由）により提出してください。

- （1）提出期間：令和8年2月10日（火）から令和8年2月13日（金）16時まで
- （2）提出先：3.（2）に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

- （1）閲覧期間：令和8年2月17日（火）から令和8年2月19日（木）まで
- （2）閲覧方法：ホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

8. その他

- （1）この参考見積書をご提出いただいたことで、業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

- （2）提出していただいた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

業務内容（建設発生土受入地盛土安定性検討業務）

第 1 節 業務目的

本業務は、既存設計資料を基礎として、建設発生土受入地における盛土の安定性を検討するとともに、関連施設の修正設計を行うことを目的とする。

あわせて、事業における土砂搬出工程を考慮した施工計画を立案するとともに、工事発注に必要な図面、工種別数量計算、施工段階毎のステップ図及び概算工事費の算出を行うものである。

第 2 節 業務内容

2-1 設計計画

受注者は、設計図書及び貸与資料等に基づき業務目的及び業務内容を十分に把握した上で、業務計画書を作成し、調査職員に提出するものとする。

2-2 資料収集・整理

受注者は、貸与された既存資料および検討に必要な情報を収集・整理するものとする。

2-3 現地踏査

受注者は、設計範囲における地形、地質、地物、湧水の状況、植生・用排水、既存構造物、土地利用状況及び文化財の把握・確認を行うものとする。

2-4 盛土安定性検討

盛土規制法に関する技術的基準（令和 7 年 9 月 福岡県）及び盛土等防災マニュアルの解説（令和 5 年 11 月 盛土等防災研究会編集）等に基づき盛土の安定性検討を行うものとする。

2-4-1 浸透流解析

盛土の安定性検討のための盛土内浸潤線の設定を目的として、既存設計の盛土形状（以下、「設計対象盛土」という。）を対象に浸透流解析を実施する。浸透流解析は、設計対象盛土が溪流に盛土されることを踏まえて二次元及び三次元の条件で行う。

(1) 二次元浸透流解析

主要な溪流縦断から代表 2 断面を選定して二次元浸透流解析を行い、既存調査や文献値を用いて解析条件を設定したうえで計算を実施し、得られた飽和度・浸潤線・流速等の結果を基に盛土の安定性および安定解析に用いる水位条件を評価する。

(2) 三次元浸透流解析

設計対象盛土周辺の水理地質構造を検討したうえで、盛土全体を対象とした三次元浸透流解析モデルを構築し、飽和・不飽和流れの非定常解析を実施し、得られた飽和度・浸潤線・流速等の結果を基に盛土の安定性および安定解析に用いる水位条件の妥当性について検証する。

2-4-2 液状化判定

既往地質調査資料を基に、液状化発生の有無を確認する。液状化判定の方法は FL 法によるものとする。

判定の結果、液状化による盛土の強度低下等が見込まれる場合は、強度低下等を生じさせない方法を検討し、設計条件の見直しを行う。

2-4-3 盛土安定解析

2-4-1～2 で得られた成果を基に、二次元及び三次元の盛土安定解析を行い、盛土面の安全性を評価する。

(1) 二次元盛土安定解析

2-4-1(1) で設定した 2 断面において、修正フェレニウス法により二次元の安定解析を行う。解析は常時・地震時の 2 ケースを対象にする。

なお、2-4-1～2 の検討において特殊な条件が考慮する必要が生じた場合は、調査職員と協議するものとし、変更を指示した場合は設計変更の対象とする。

(2) 三次元盛土安定解析手法の立案

盛土マニュアル等を踏まえて、二次元解析結果の妥当性を検証するために必要な三次元解析の方法を立案する。

また、設計地震動については寺内ダム耐震性能照査に用いた L2 地震動を想定しているが、作成が必要となった場合は、別途調査職員と協議するものとする。

(3) 三次元盛土安定解析

前項で立案した手法により盛土全体を対象とした三次元盛土解析を行い、盛土の安定性について評価する。

2-5 施設修正

2-5-1 排水施設

実績降水量を整理した上で、本盛土箇所（溪流）における降雨強度を検討する。

検討した降雨強度に基づき排水施設の修正設計を行う。修正設計の対象は降雨強度変更に伴い影響を受ける施設のみとする。

2-5-2 沈砂池施設

関連業務で実施する地質調査結果を踏まえて、既往設計の堰堤（重力式コンクリート）の修正設計（安定計算含む）を行う。

〔設計規模〕

	高さ	幅	備考
堰堤①	7.0m	26.1m	水叩きあり
堰堤②	6.8m	32.8m	水叩きあり

2-6 施工計画の立案

沈砂池を含む建設発生土受入地全体の施工計画を検討する。調査職員が別途提供す

る事業・年度別発生土量（土岩別）を基に、工区割りを検討するとともに、準備工、仮設工を含めた年度計画を検討し、各年度及び施工ステップ毎に図面を作成する。工事期間は令和 9 年度から令和 19 年度までとする。

また、施工ステップを踏まえた仮設構造物等を設計し、工区割り毎に図面及び数量計算書を作成する。

なお、施工計画立案に当たっては、トンネル工事により発生する発生土の一部が管理型処分となることも想定した計画を検討する。

2-7 設計図作成

修正設計及び施工計画を基に設計図を作成し、過年度業務の設計図と併せて発注図としてとりまとめるものとする。

設計図名称	縮尺	備考
平面図	1/500 又は 1/1000	
縦断図	V=1/500～1/1000 H=平面図と同様	
標準横断図	1/200～1/100	
横断図	1/200～1/100	
排水工図	1/100～1/50	
詳細図		沈砂池
仮設図	1/100	指定・無指定仮設

2-8 数量計算

数量は工種毎にまとめるものとし、数量算出にあたっては「令和 7 年度土木工事数量算出要領（国土交通省）」によるものとする。

なお、数量算出に際しては、年度毎の施工数量についても検討し、整理するものとする。

2-9 概算工事費算出

全体の概算工事費および年度毎の予定工事費を算出するものとする。

2-10 報告書作成

本業務で実施した検討等について取りまとめた報告書を作成するものとする。

2-11 その他の留意事項

1. 図面タイトル上の区域は、施工上必要な注意事項を記入するため、原則として構造図等を記入してはならない。
2. 測点、土被り、延長及び寸法等については、mm 単位で表示するものとする。
3. 土工横断図は、算出根拠となる区分線及び数値を記入するものとする。
4. コンクリート及び材料等の種別は、注意事項に記載するものとする。

5. 図面は、工事発注の設計図として使用するため、工事施工の出来形管理及び品質管理に必要な諸元を必ず記載するものとする。
6. 数量計算書には、算出根拠の図面を添付するものとする。
7. 数量算出根拠図に基づき、工事発注に対応した各工種別数量計算書を作成するものとする。
8. 数量計算書は、積算に対応できるようにとりまとめるものとする。
9. 管材は、管種毎の延長、本数、総重量、1本当りの重量等、必要な事項を記入するものとする。
10. 金物等は、その重量を算出するものとする。

－以上－

【別紙－ 2】

1. 歩掛見積 対象項目

	単位	主任技術者 (人)	技師長 (人)	主任技師 (人)	技師 (A) (人)	技師 (B) (人)	技師 (C) (人)	技術員 (人)
設計計画	式							
資料収集・整理	式							
現地踏査	式							
二次元浸透流解析	断面							
三次元浸透流解析	ケース							
液状化判定	ケース							
二次元盛土安定解析	断面・ケース							
三次元盛土安定解析手法の立案	式							
三次元盛土安定解析	ケース							
施設修正（排水施設）	式							
施設修正（沈澱池施設）	式							
図面作成	式							
数量計算	式							
概算工事費算出	式							
報告書作成	式							

※浸透流解析及び盛土安定解析は、1 断面もしくは 1 ケース当たりの歩掛の計上をお願いします。

2. 履行期間

本業務を実施するにあたって必要な期間もあわせて回答をお願いします。（履行期間：〇ヶ月）

建設発生土受入地平面図 S=1/1000

設計対象範囲

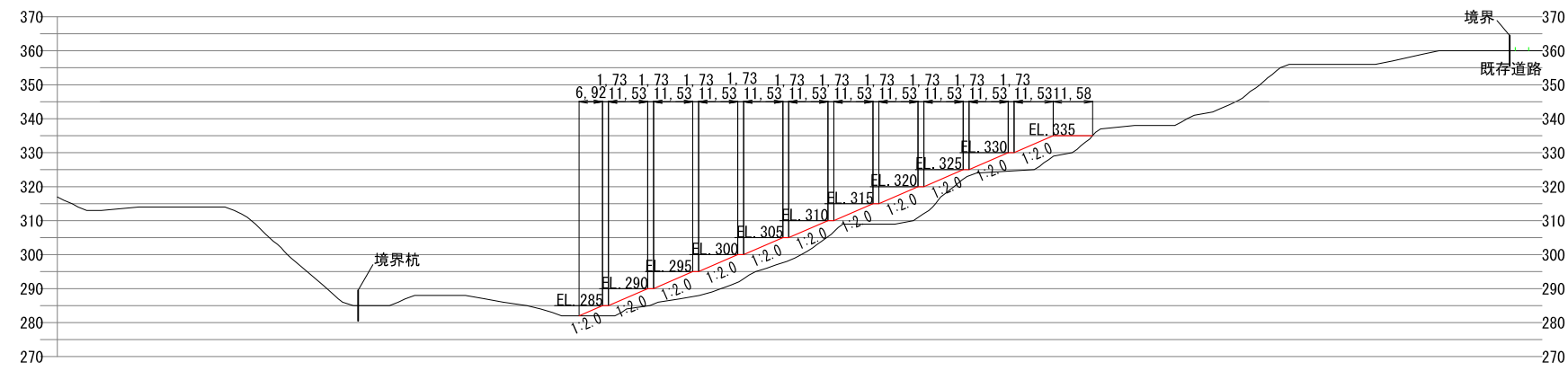
計画盛土量 約60万m³

二次元解析
予定断面

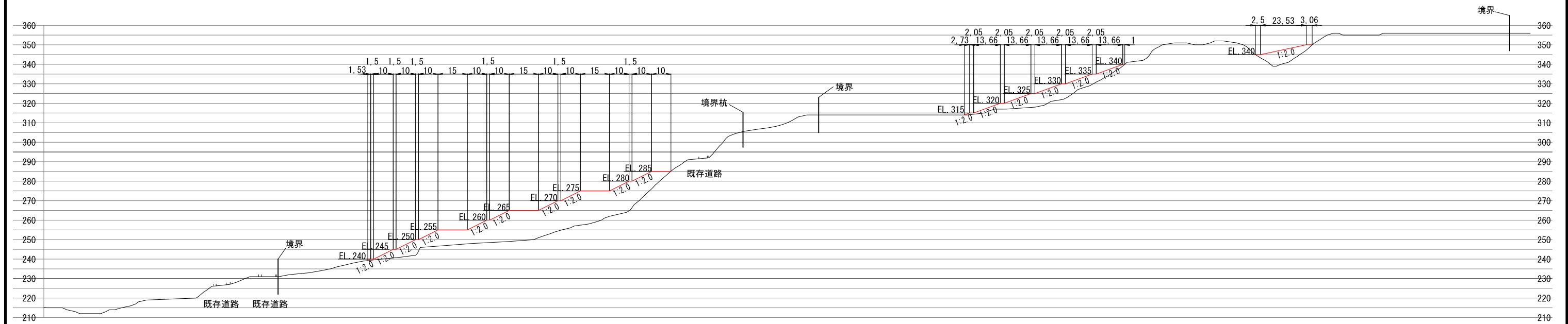
二次元解析
予定断面

建設発生土受入地断面図(1) S=1/1000

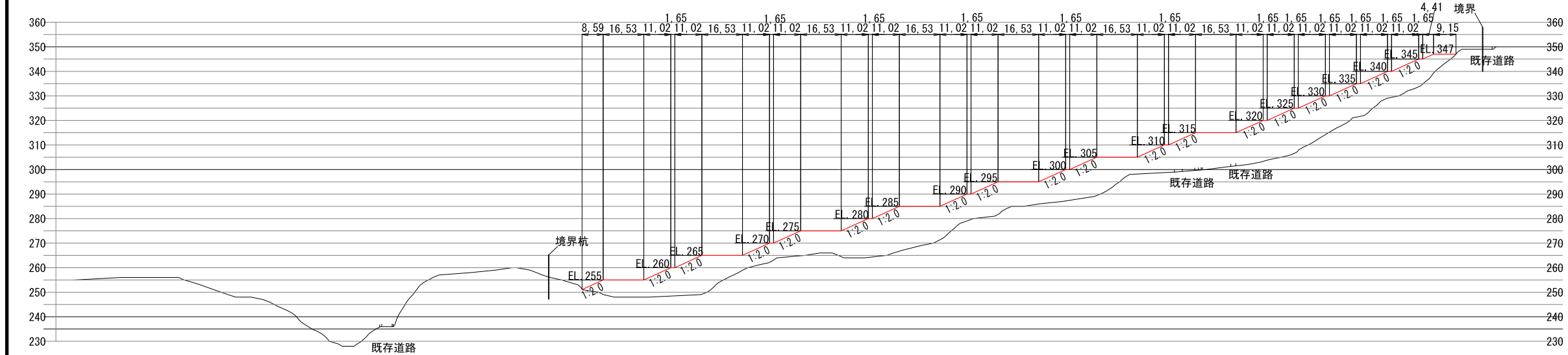
A-A' 断面



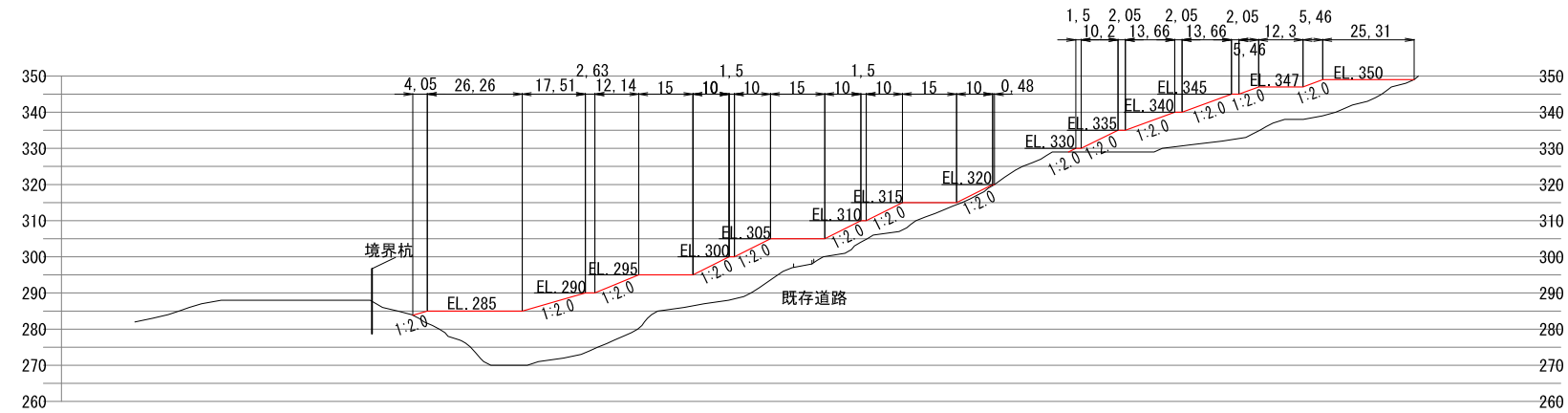
B-B' 断面



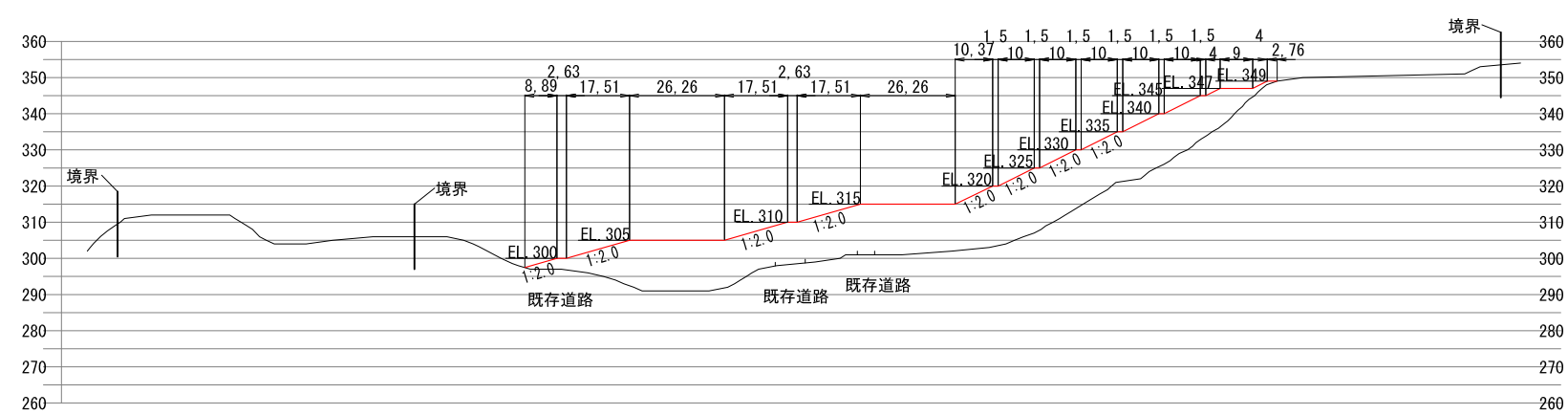
C-C' 断面



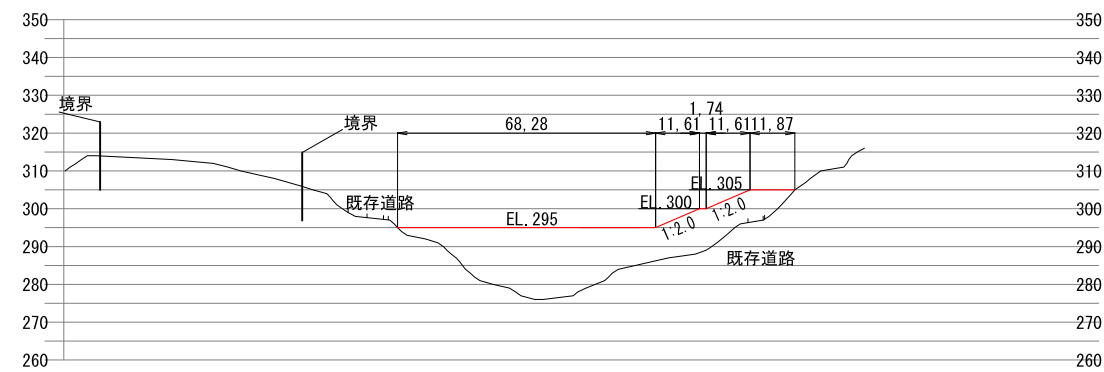
D-D' 断面



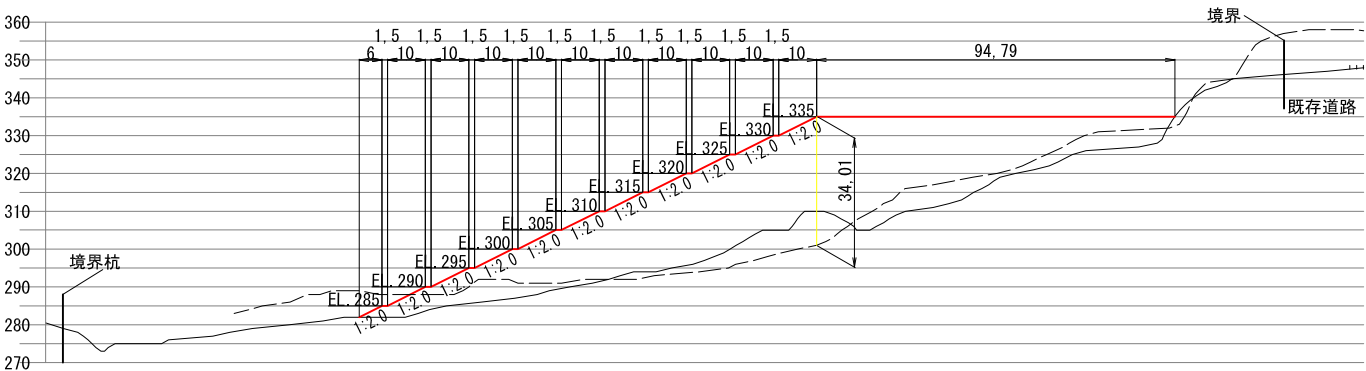
E-E' 断面



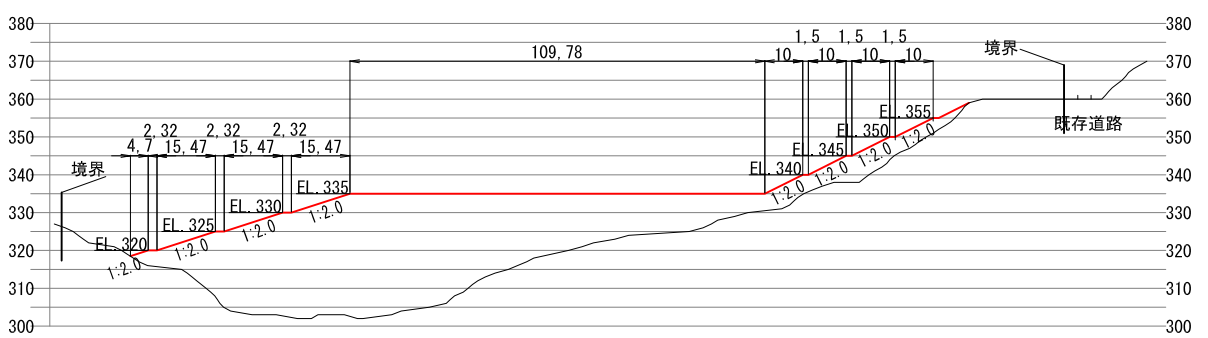
F-F' 断面



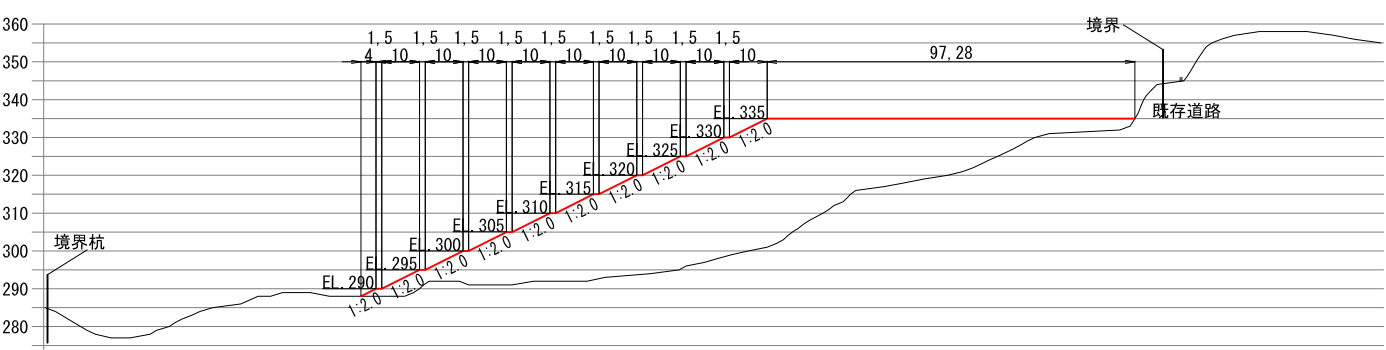
H-H' 断面



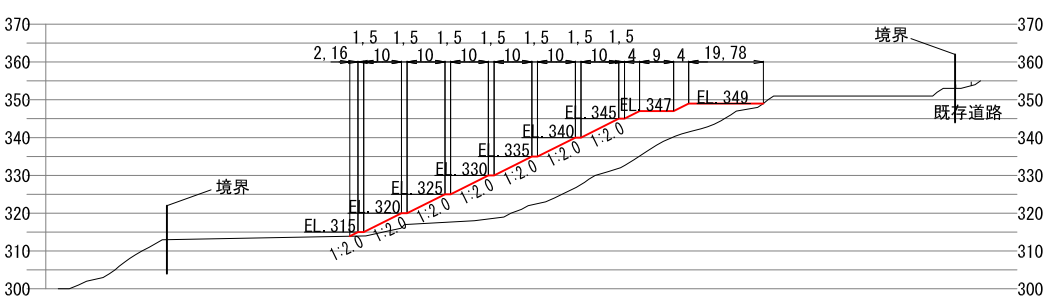
K-K' 断面



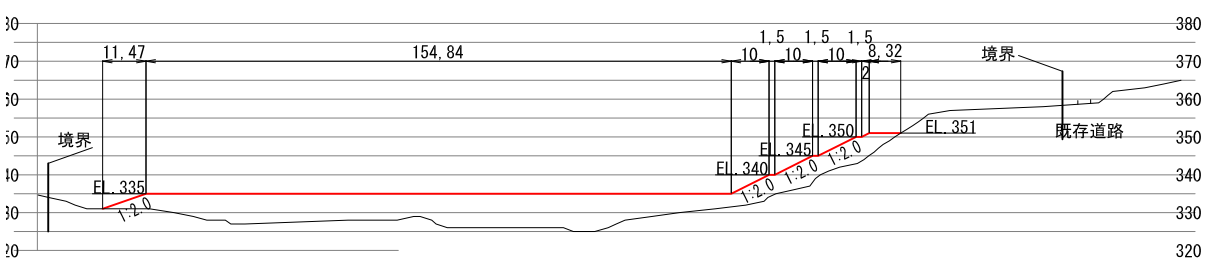
I-I' 断面



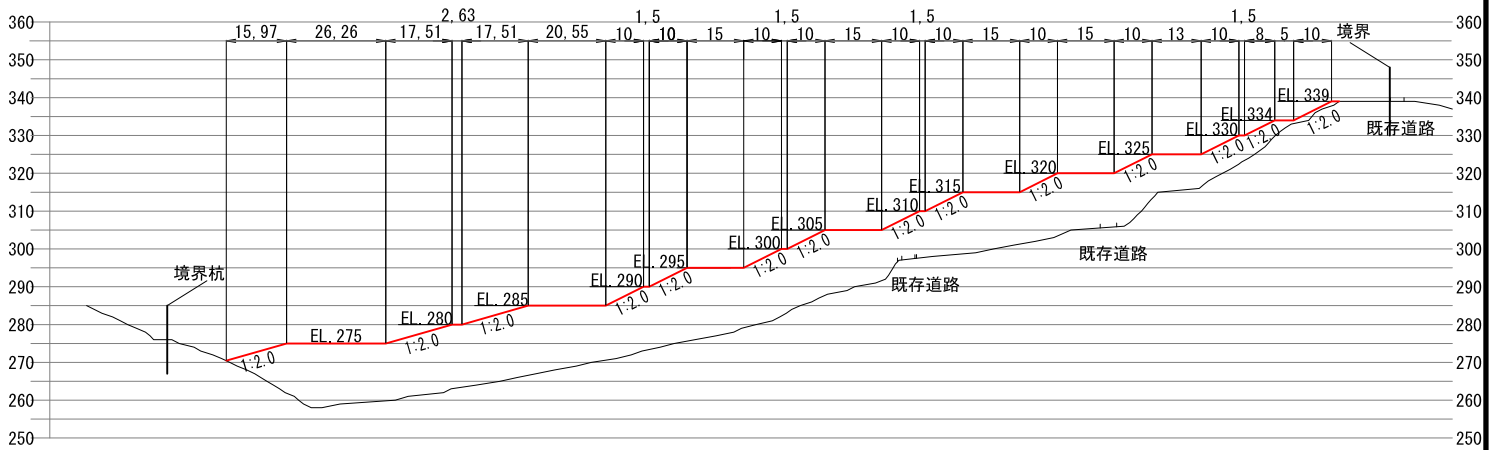
L-L' 断面



J-J' 断面

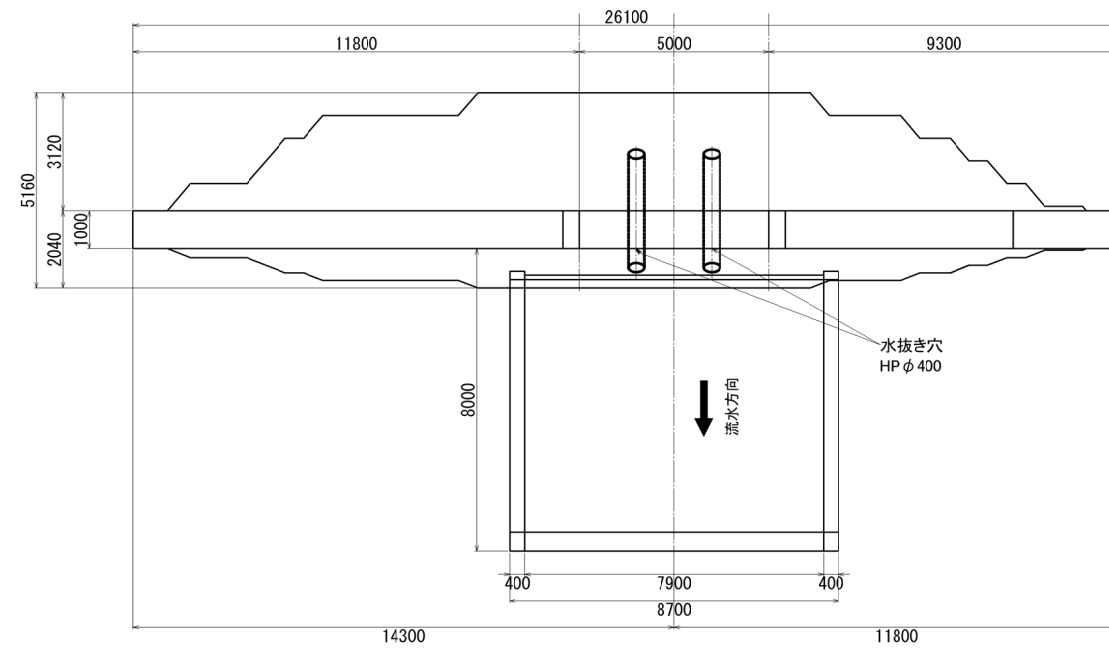


M-M' 断面

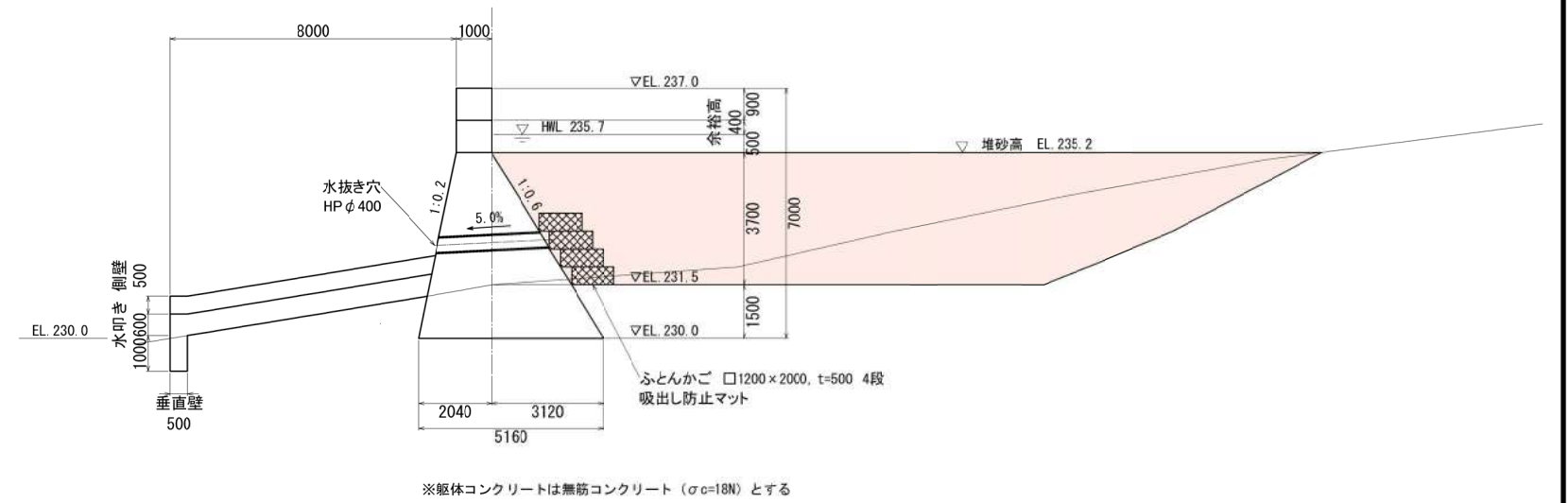


沈砂池① 構造一般図 S=1:100

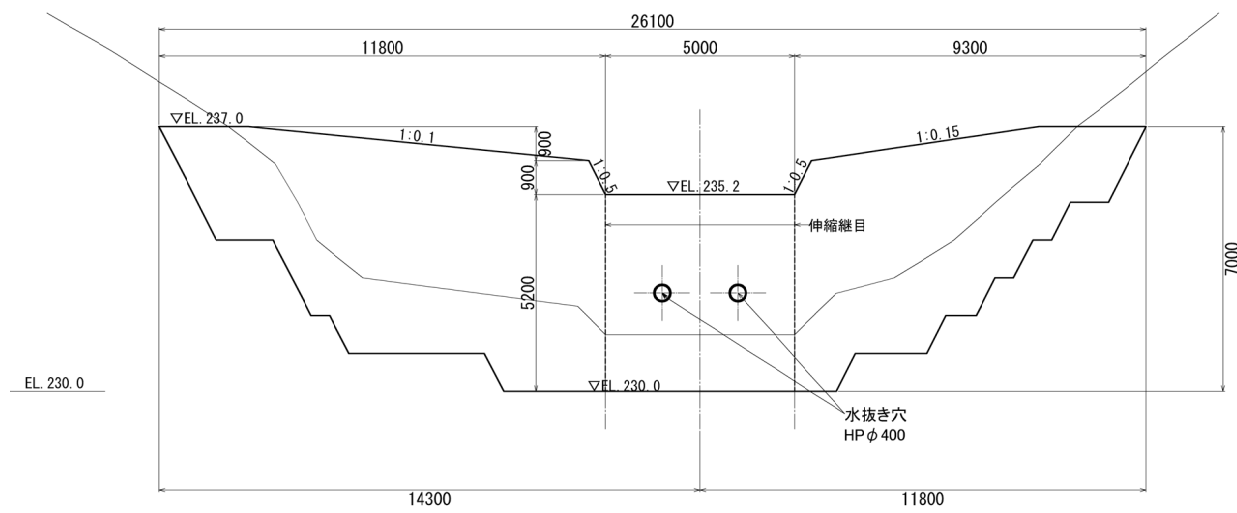
平面図



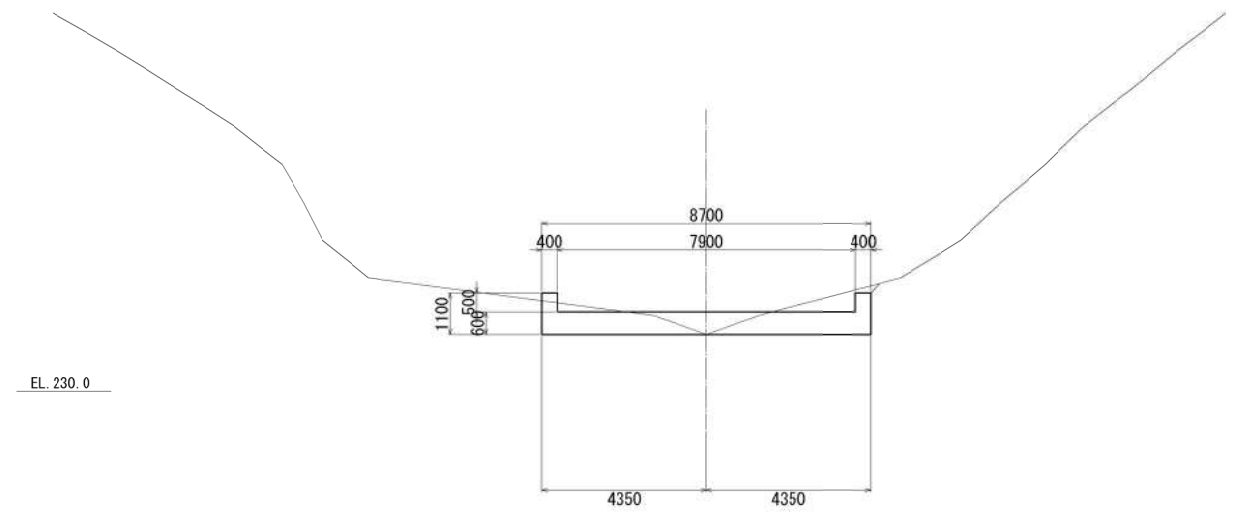
側面図



正面図

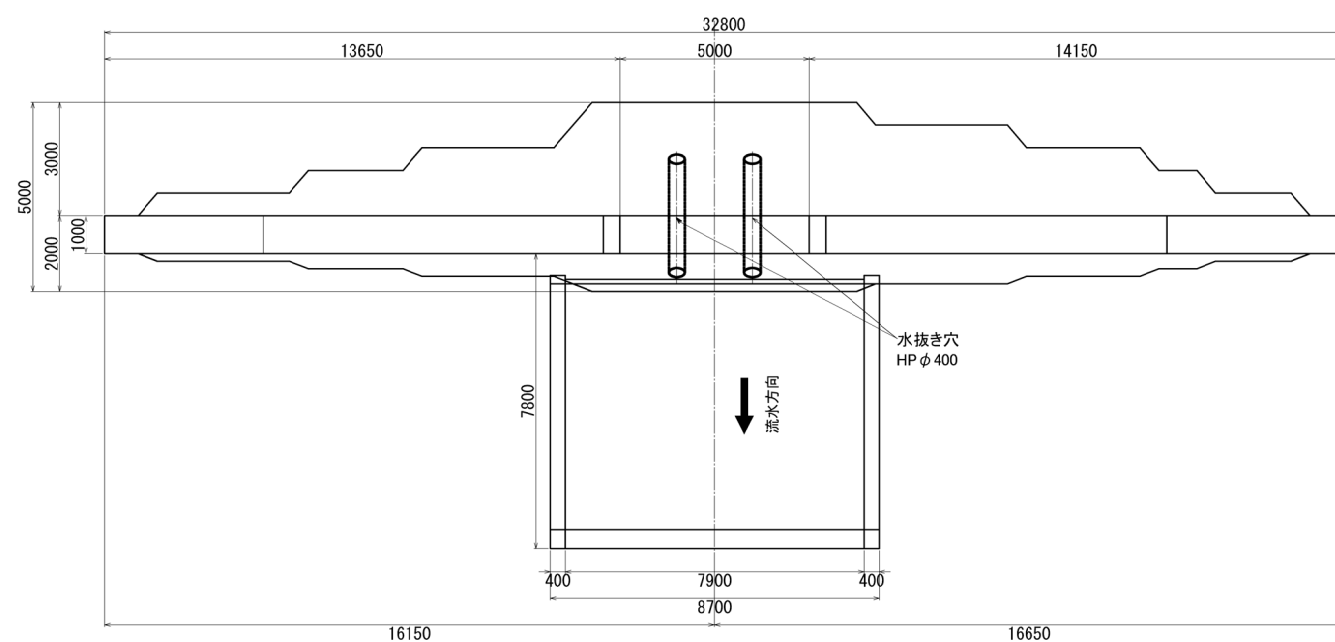


水叩き断面図

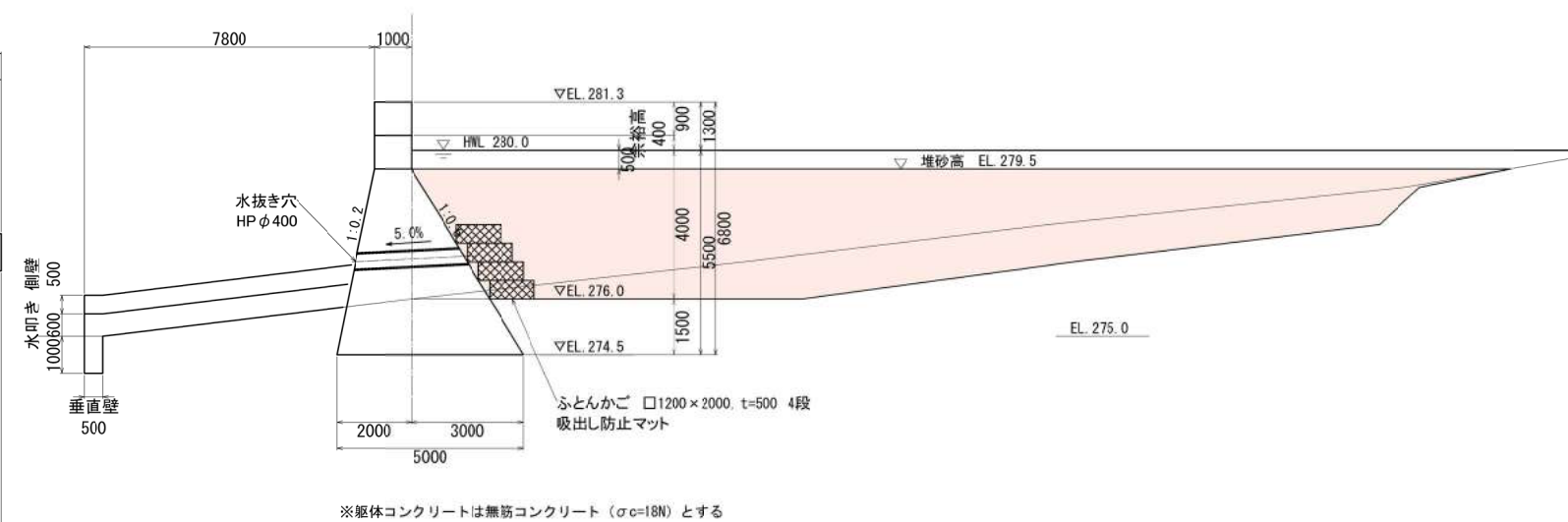


沈砂池② 構造一般図 S=1:100

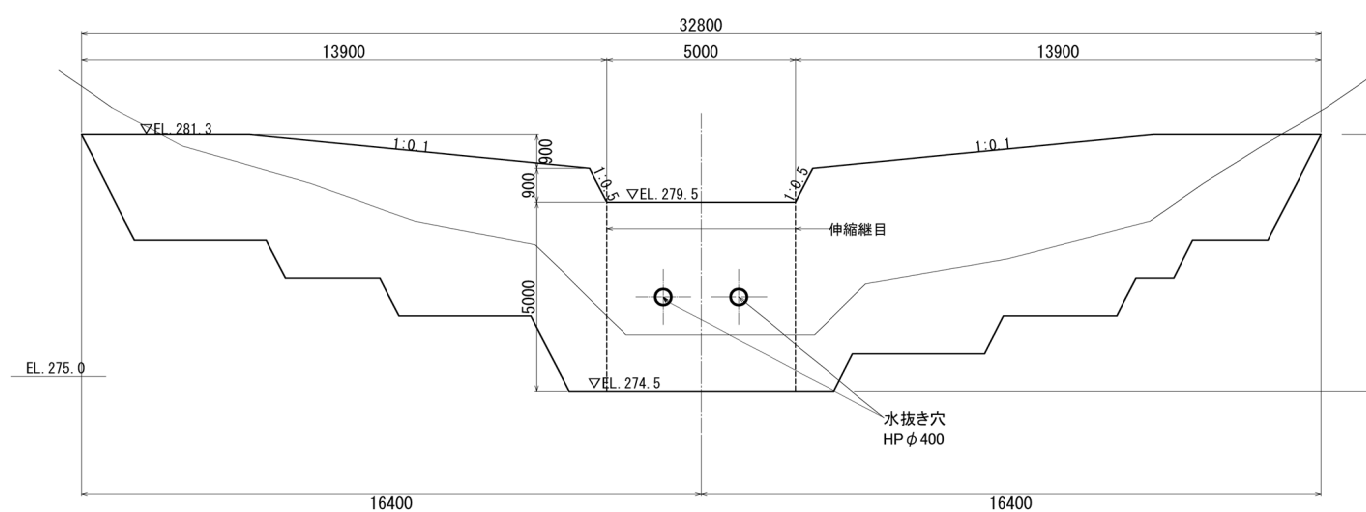
平面図



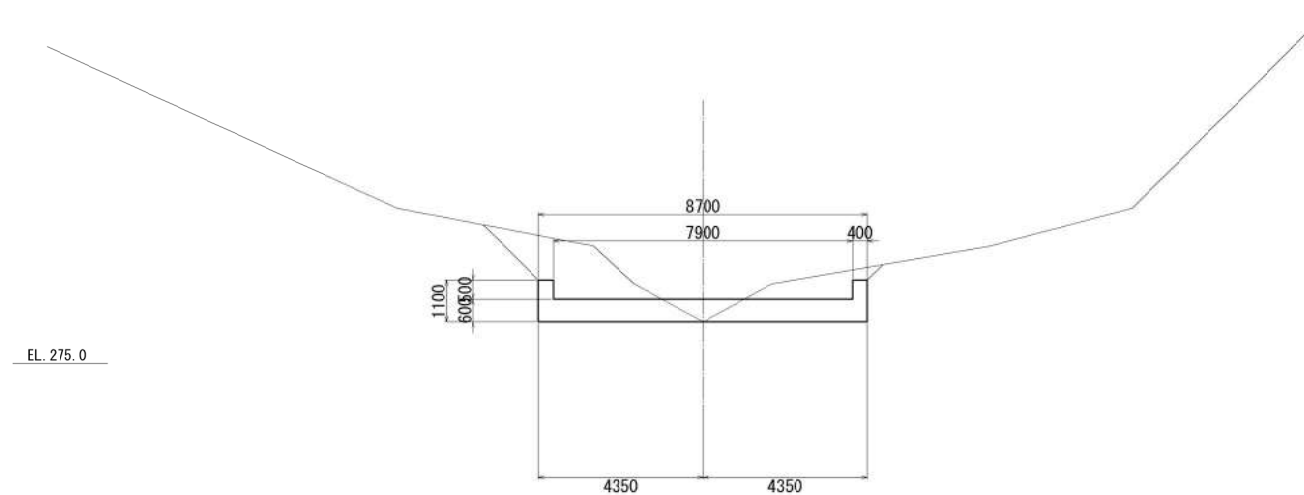
側面図



正面図



水叩き断面図



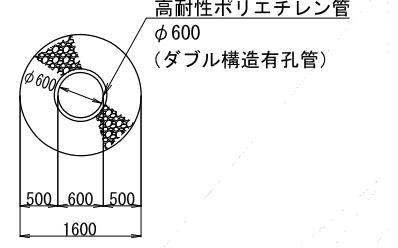
参考図

仮設排水工計画一般図(参考図)

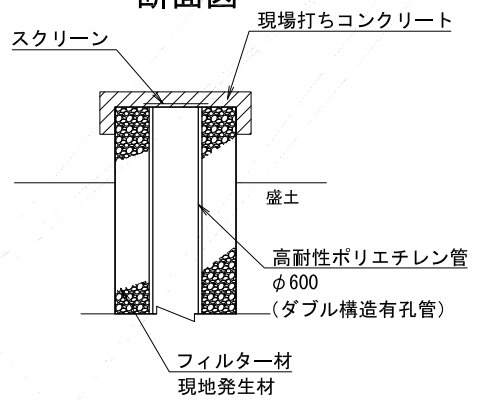
S=1/1000

雨水排水管及び中央縦排水配置イメージ図

平面図 S=1/20



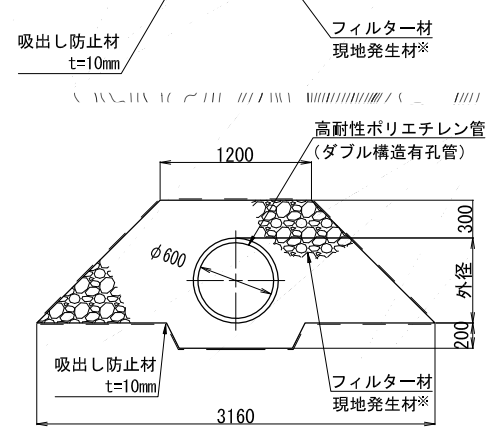
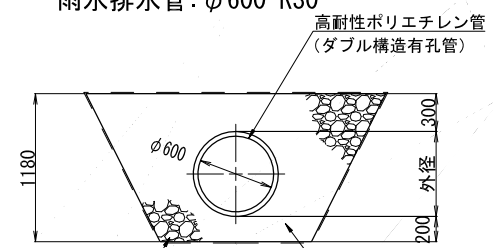
断面図



※盛土施工中、中央縦排水は1.0m程度地表面に突出させること。

断面図 S=1/30

雨水排水管: φ600 R30



※ フィルター材は既設仮置場より採取する。

流域①

流域②

凡 例

- 雨水排水工
- 中央縦排水工
- 分岐管

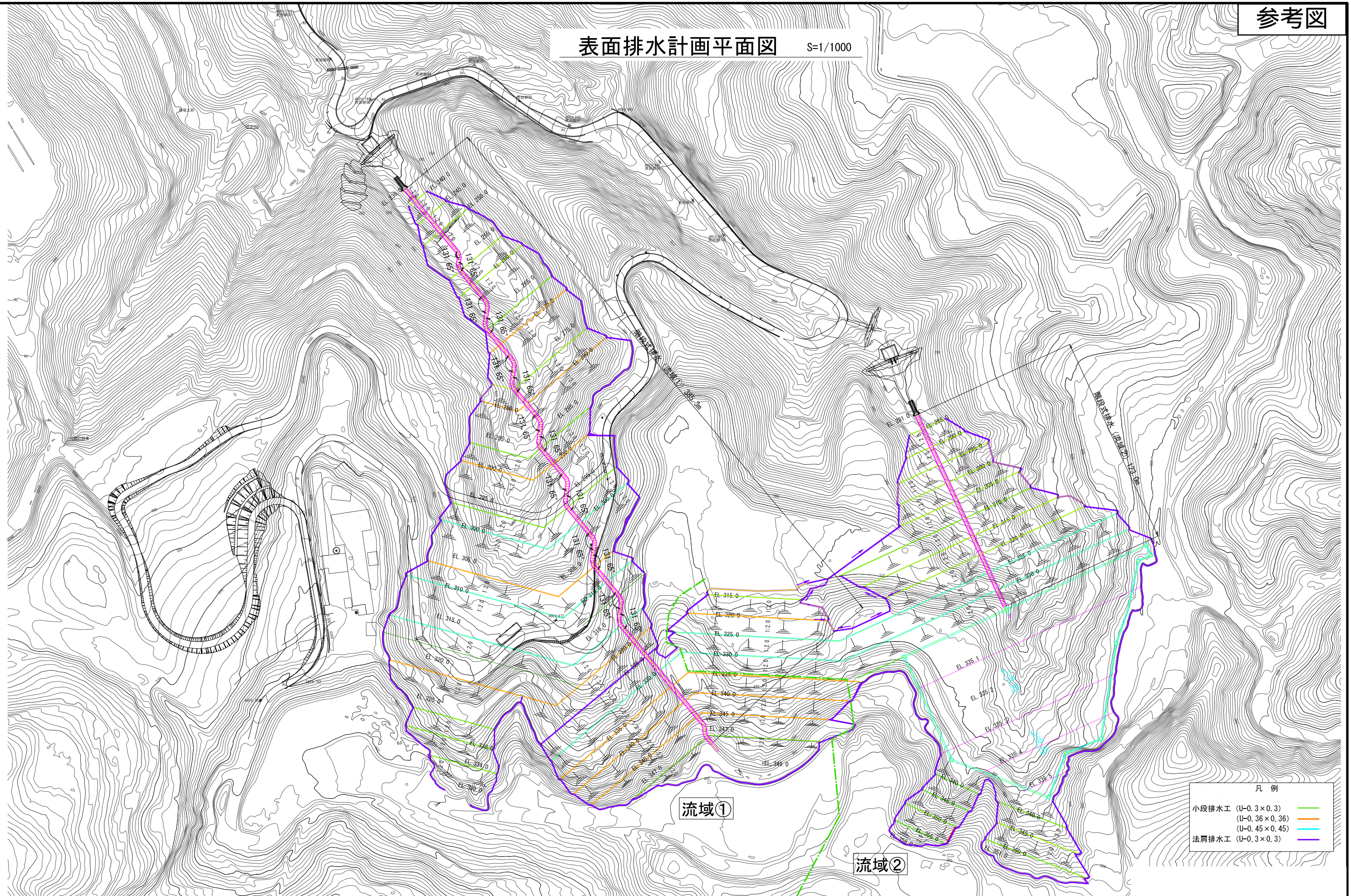
縮尺=1/1000 (A1)

0 50 100m

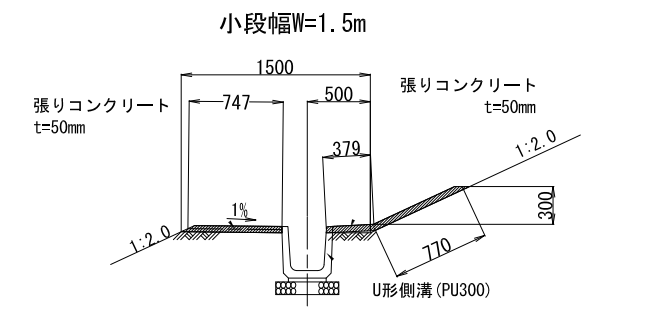
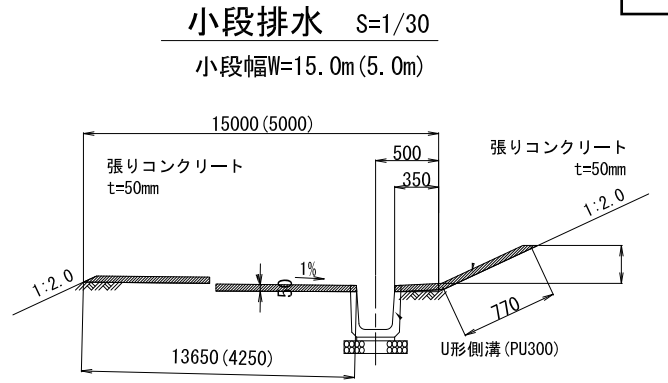
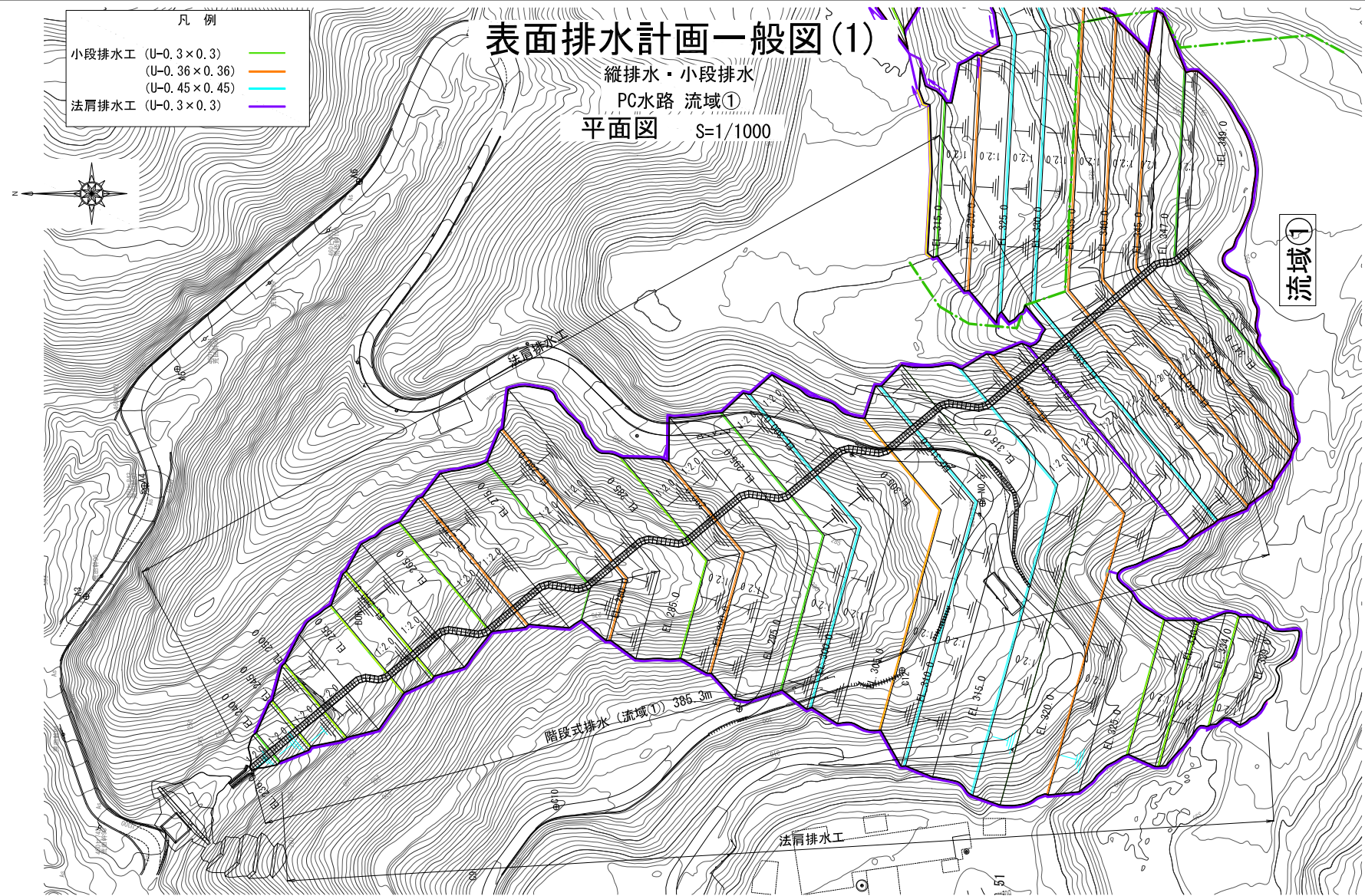
※中央縦排水工は法尻から50mに1箇所配置

表面排水計画平面図

S=1/1000

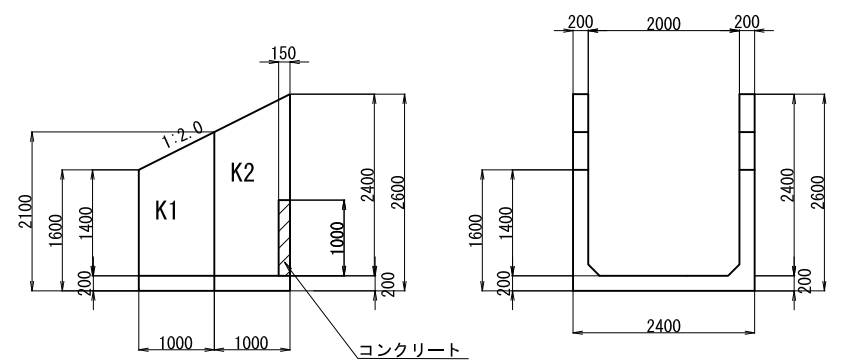


縮尺=1/1000 (A1)
0 50 100m

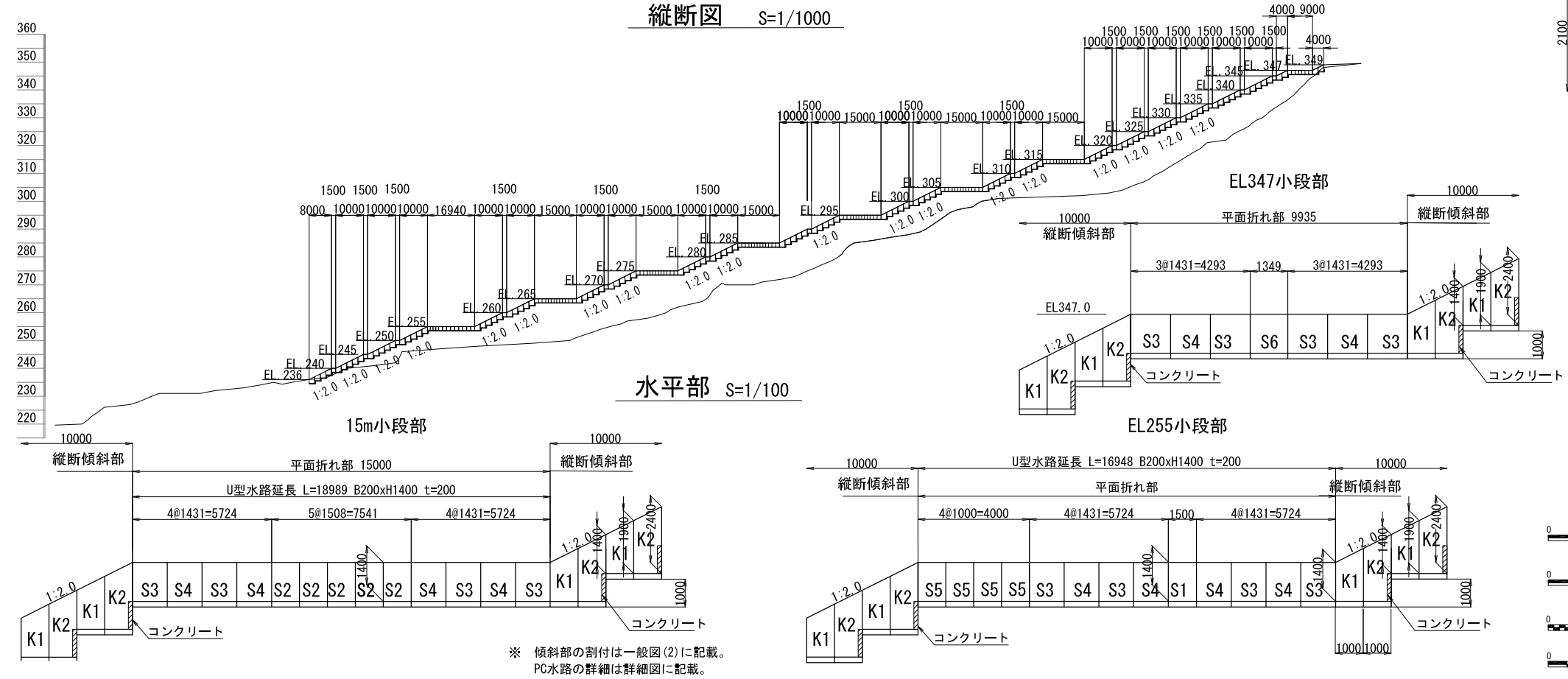
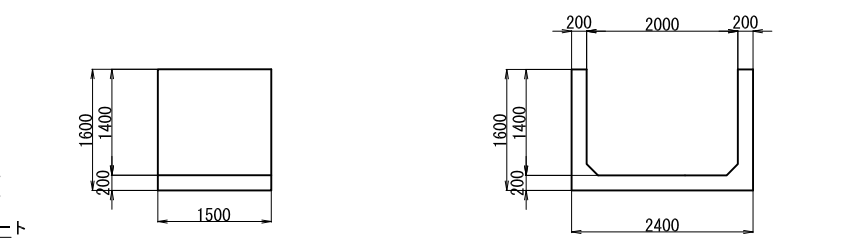


※上図は小段排水がPU300の場合

PC水路形状図 S=1/50
斜面部



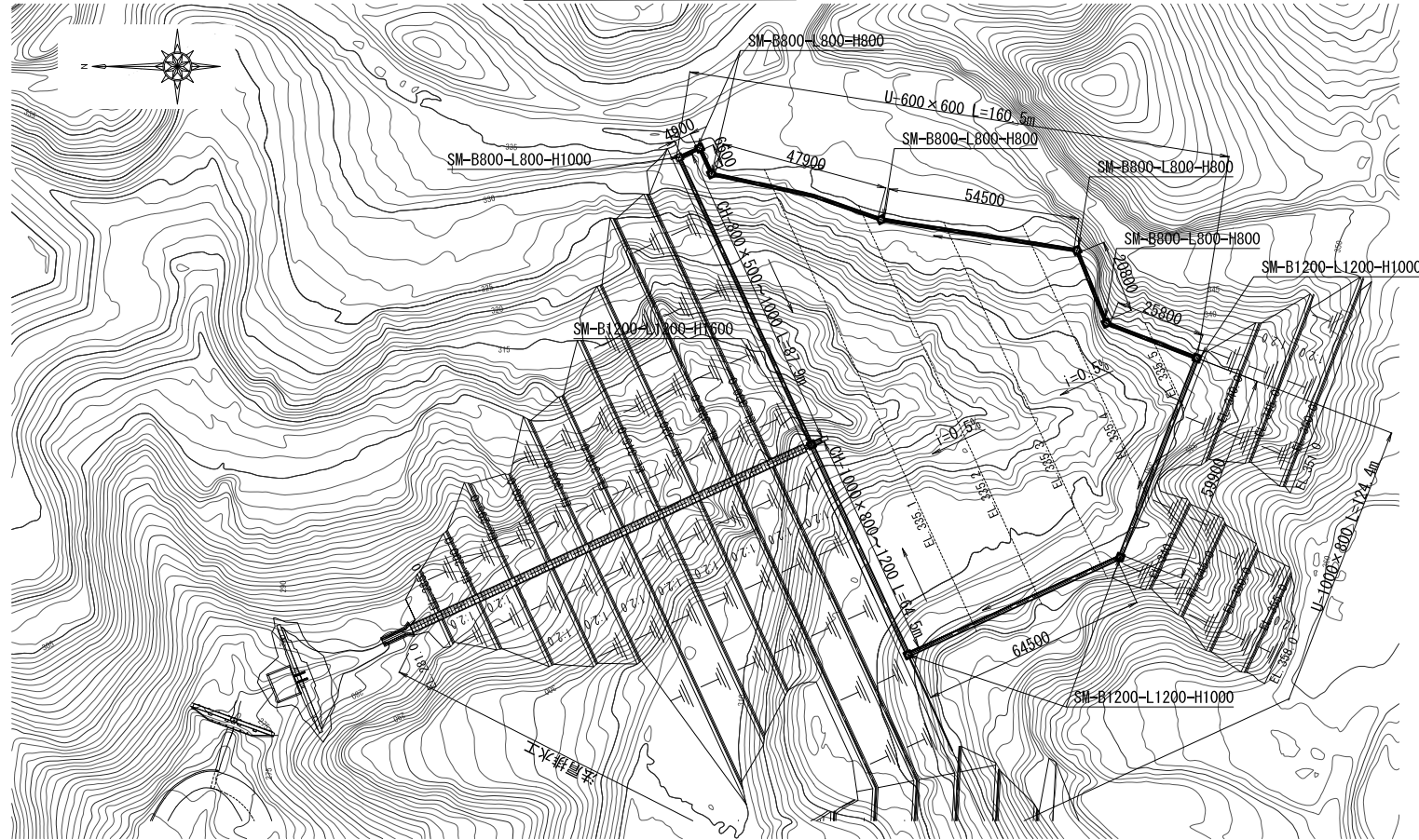
水平部



天端排水計画一般図

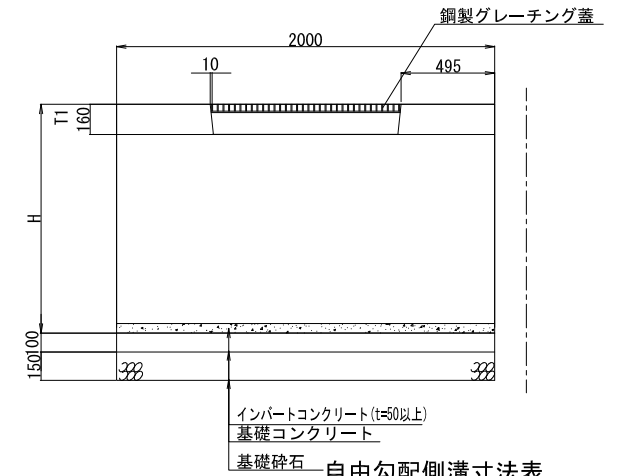
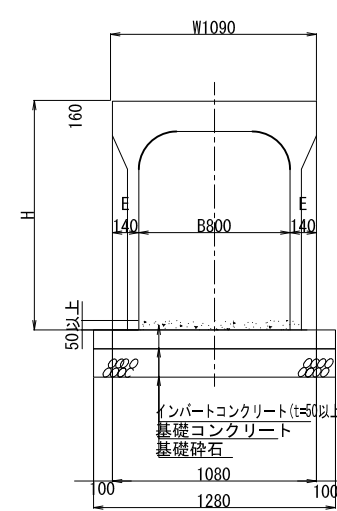
縦排水・小段排水
PC水路 流域②

平面図 S=1/1000



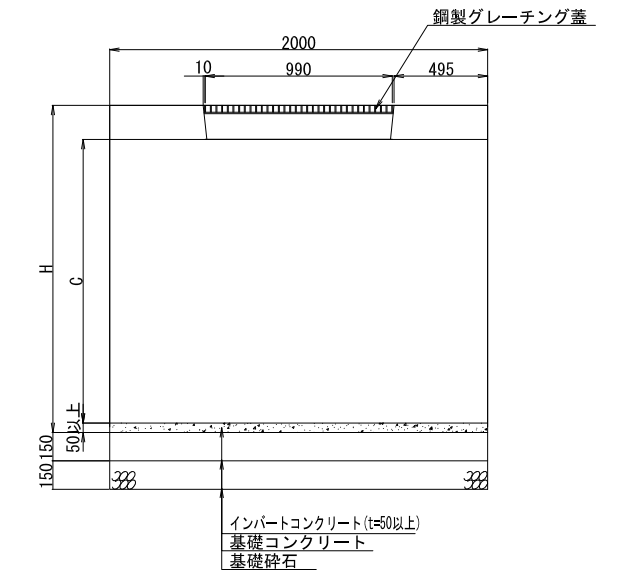
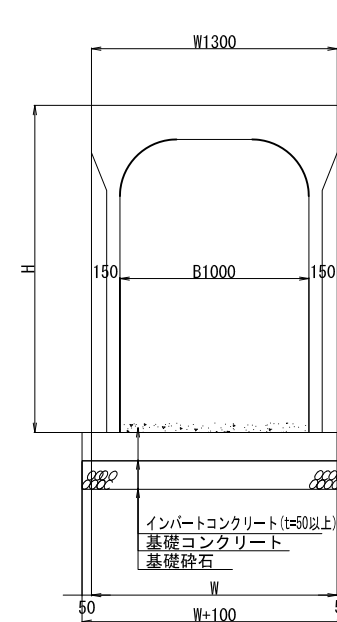
自由勾配側溝 S=1/20

(④Q=0.44m³/s CH-800×600~1000)
B800×H=600~1000



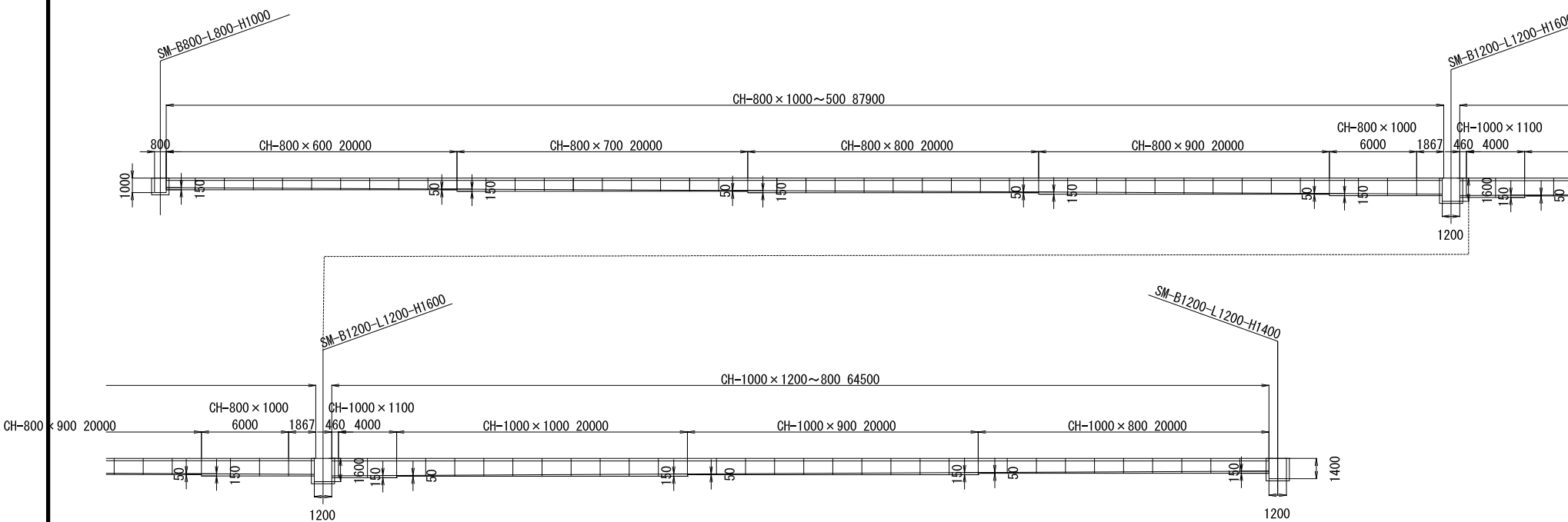
自由勾配側溝寸法表		種別			寸法 (mm)		
(巾(B)×深(C))	H	T1	E				
800×600	810	160	140				
800×700	910	160	140				
800×800	1010	160	140				
800×900	1110	160	140				
800×1000	1210	160	140				

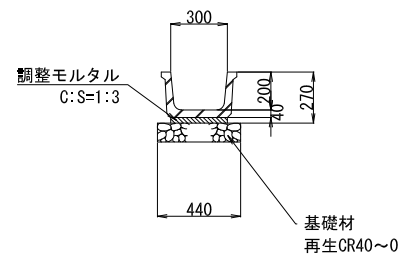
(②Q=0.44m³/s CH-1000×800~1200)
B800×H=800~1200



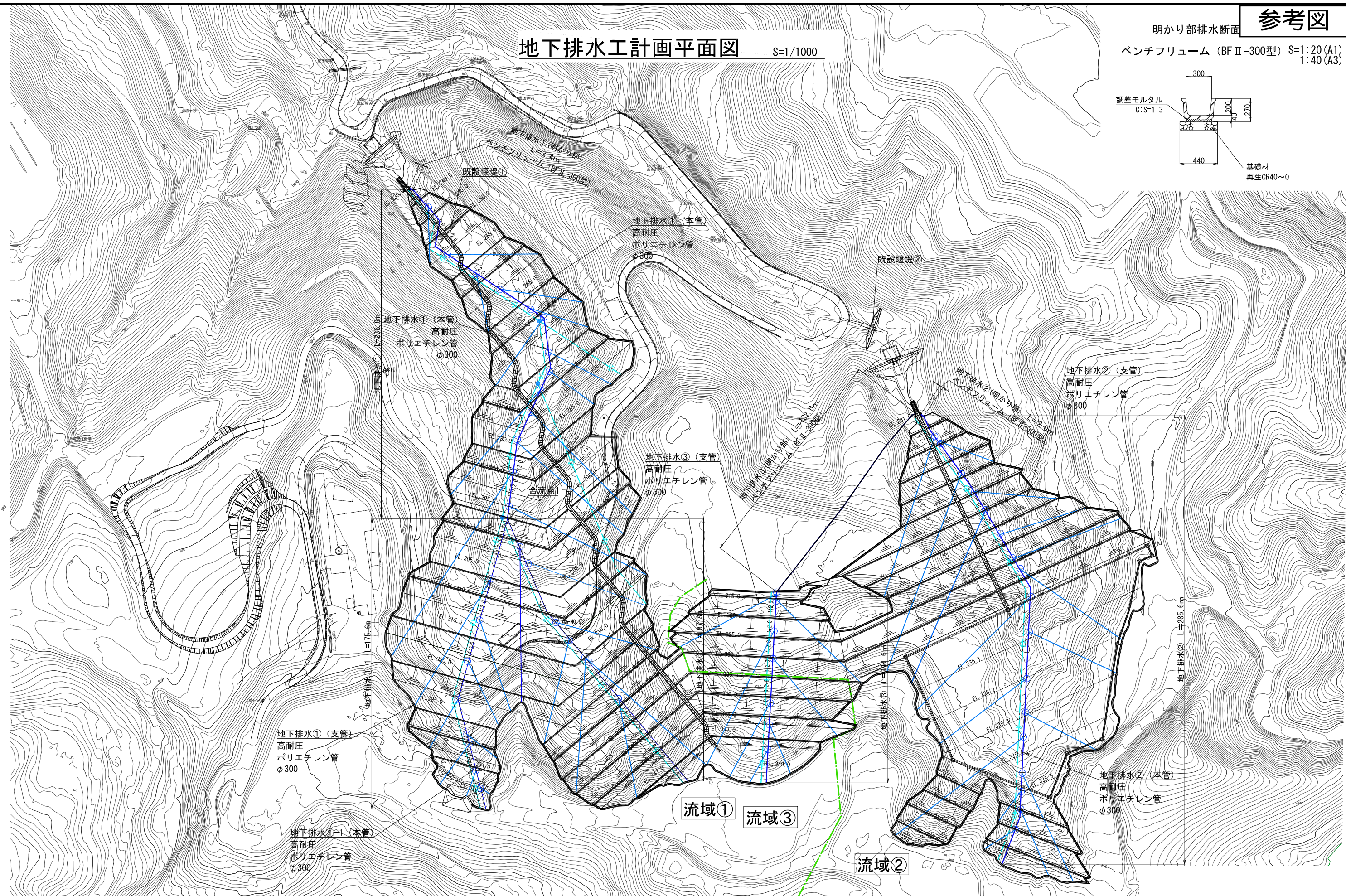
自由勾配側溝寸法表		種別			寸法 (mm)		
(巾(B)×深(C))	H	T1	E				
1000×800	1030	180	150				
1000×900	1130	180	150				
1000×1000	1230	180	150				
1000×1100	1330	180	150				
1000×1200	1430	180	150				

自由勾配側溝縦断面図 S=1/200





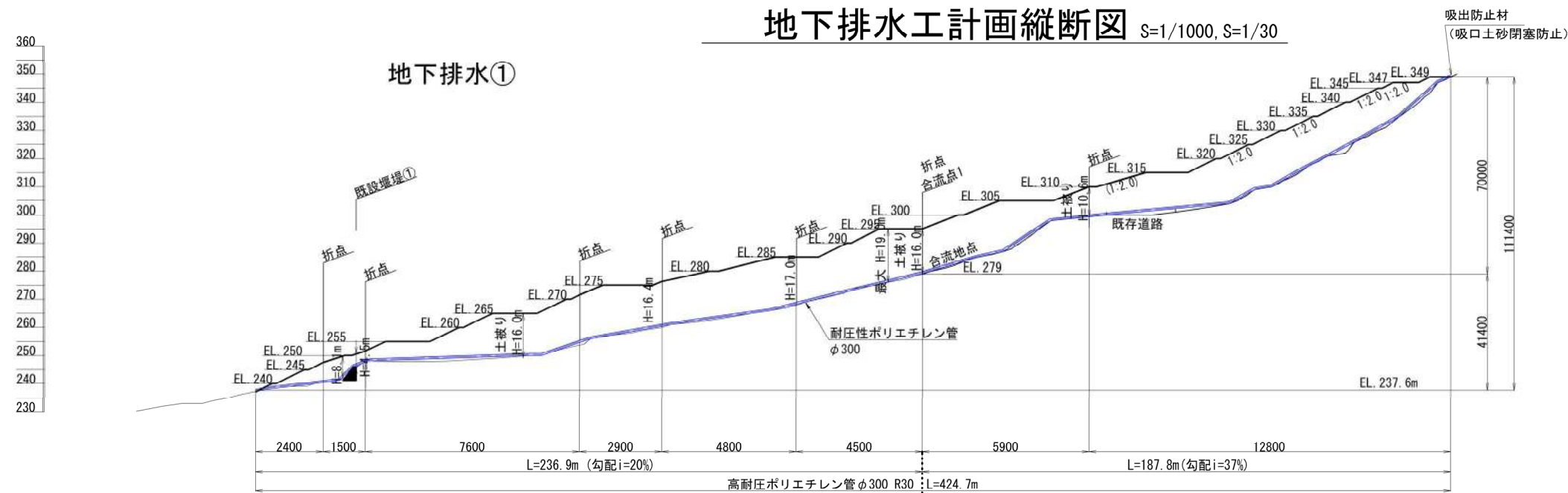
地下排水工計画平面図 S=1/1000



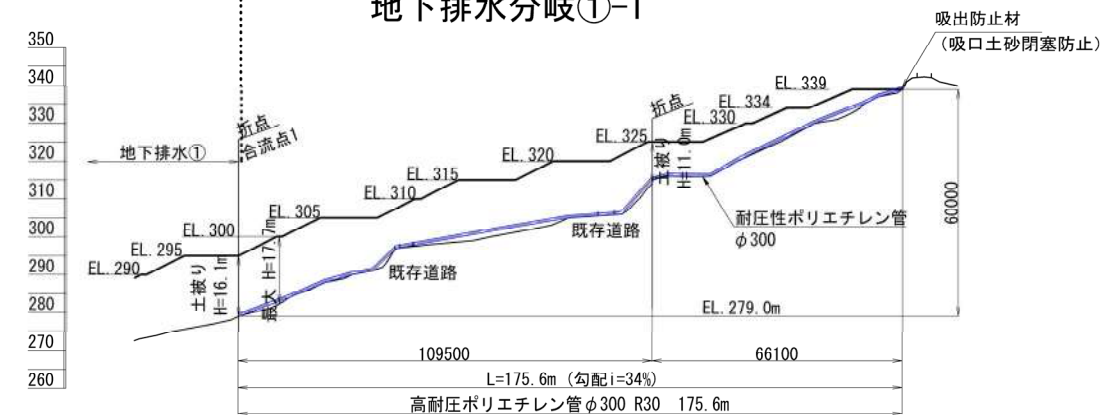
凡 例
— 地下排水工 (本管)
— 地下排水工 (支管)
○ 分岐管

縮尺=1/1000 (A1)
0 50 100m

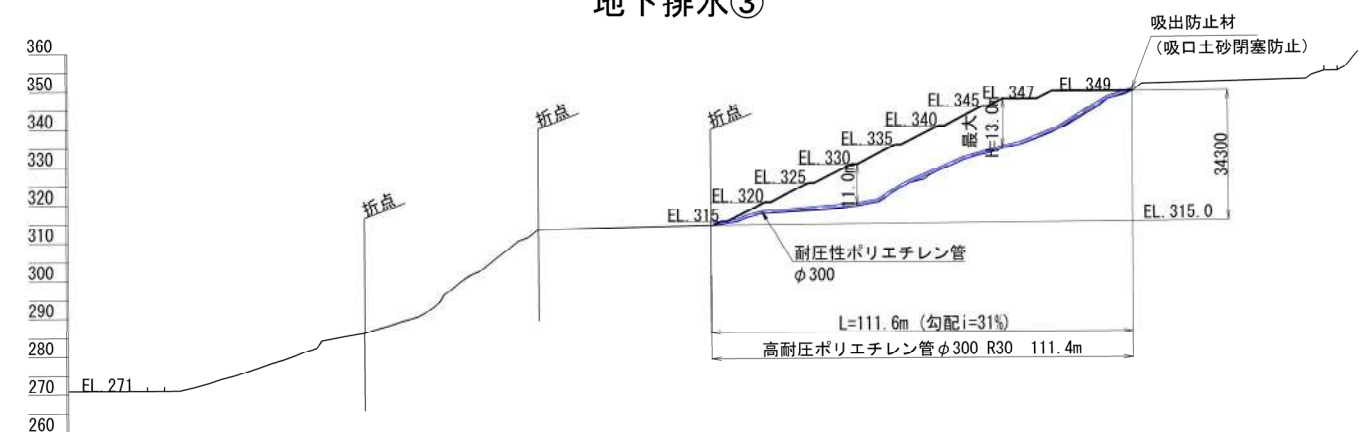
地下排水工計画縦断図 S=1/1000, S=1/30



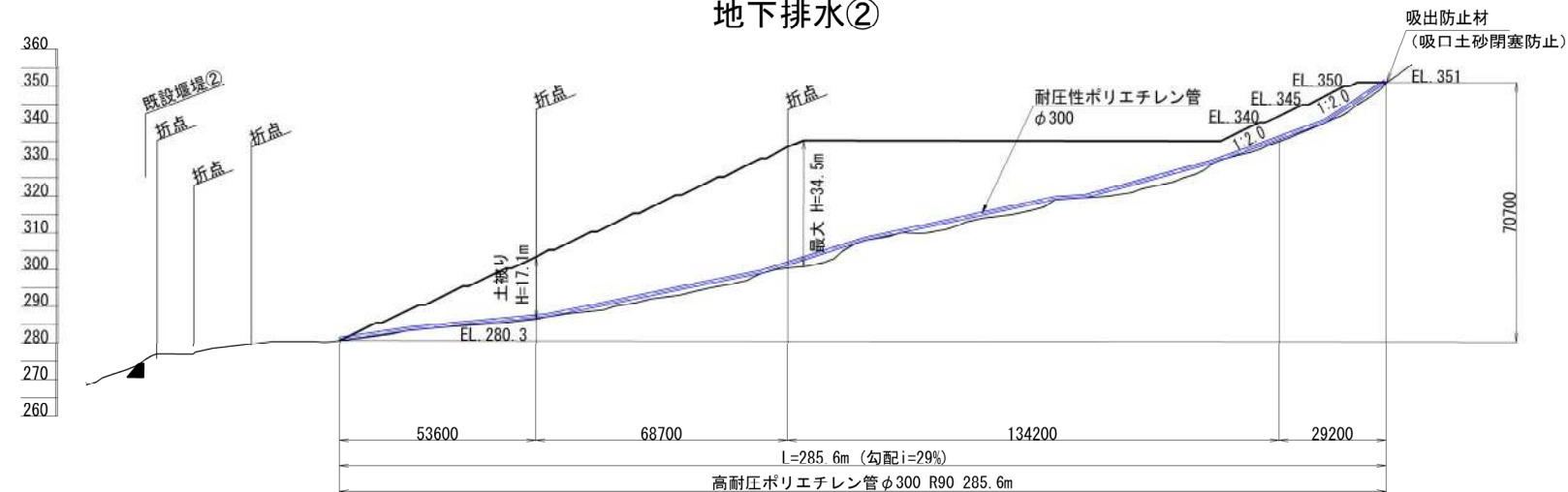
地下排水分岐①-1



地下排水③

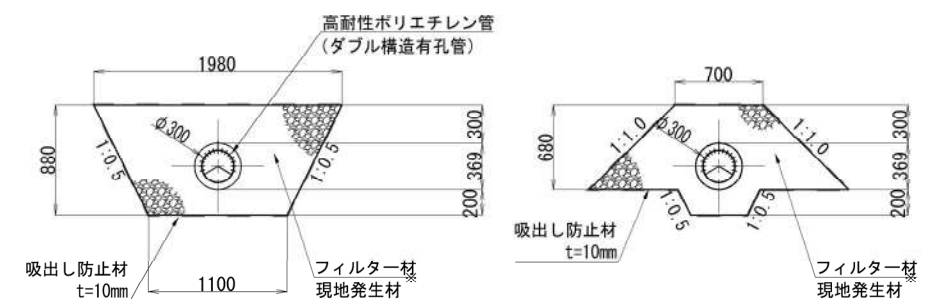


地下排水②



断面図 S=1/30

本管・支管： $\phi 300$ R30



※ フィルター材は既設仮置場より採取する。

